日本流通産業新聞　2023年3月2日号

日本流通産業新聞

水溶性珪素「生体マトリックスumo」が完成

23年から供給を開始

恒例の販売会社会議で報告

APAコーポレーション

水溶性珪素「umo（ウモ）」の原料メーカーであるAPAコーポレーション（エーピーエー、本社愛知県、岡田憲己社長、☎0563－65－0033）は2月11日、年初恒例の販売会社会議を、愛知県の三河湾リゾートリンクスで開催した。より浸透性と吸収性の高い機能水を使用した水溶性珪素「生体マトリックスumo」が完成し、23年から供給を開始したことを報告した。水溶性珪素が、代替医療の現場で使われるケースがますます増えていることや、〝フェムケア素材〟として注目され始めていることにも言及した。

講演する岡田憲己社長

水溶性珪素「umo」の最新動向を説明

冒頭、岡田社長が講演し、水溶性珪素「umo」の最新動向について説明した。「今年も、さらに自信をもって皆さんが水溶性珪素を薦められるよう、我々としても、原料メーカーとして仕事を進めていきたい」と意気込みを語った。

医師や学識者が、珪素を活用した医療などについて情報交換を行うことを目的に設立された日本珪素医療研究会（事務局東京都）の存在についても言及。愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授兼センター部長が行った、水溶性珪素のヒト臨床試験の結果をまとめた論文が、学術誌に掲載されたのを機に、同研究会の新規会員となる医師が約40人まで増えていることを報告した。代替医療の現場で、治療の一つとして水溶性珪素が使われるケースが増えていると話した。

今年から、「umo」をバージョンアップした「生体マトリックスumo」の供給を開始したことも報告した。

新原料「生体マトリックスumo」は、純水の代わりに「生体機能水」を使用しているのが大きな特徴だ。「生体機能水」は、水の改質・浄化を手掛ける澤本商事（本社石川県）と、水の研究家である中島敏樹理学博士が共同研究の末に開発した機能水。「天城抗火石」を使って製造する。六角構造の水で、「浸透力・吸収力の向上」「老廃物の排出促進」などが期待できるという。水溶性珪素「umo」の力をさらに高める働きがあるとしている。

同会では、新刊「水の生命力・理論と実践」の共著者でもある、中島博士と、澤本商事の澤本三十四会長が登壇。「生体機能水」について説明した。澤本氏は、「水はとても大事。生体機能水は工業、農業、水産、木材などさまざまな分野で実績があり、これを使って水溶性珪素を作るのは大きな進化だ」などと話した。

岡田社長は、「これまでの『umo』も、他の珪素原料より2～3歩進んでいたが、新しい水になり、5～6歩進んだイメージだ」などとした。

「生体機能水の成分表示は『水』だが、パッケージに『生体マトリックスウモ』『生体マトリックス珪素』などの表示を入れて差別化することは可能だ」とも話した。

水溶性珪素のエビデンス閲覧も可能に

岡田社長は、珪素市場全体の発展のために、APAコーポレーションのホームページで、水溶性珪素に関するエビデンスを閲覧できるようになったことも報告した。

ネコや犬などの獣医療の現場で、「umo」がよく使われるようになっており、さまざまな症例が生まれていることなどについても言及した。

一方で、「フェムケア」の分野でも、「umo」の注目度が高まり始めているという。

水溶性珪素については、岐阜薬科大学の蔦谷昌之名誉教授の研究により、「糖化を抑制すること」を通して美容効果を発揮している可能性がある」ことなどが明らかになっていた。

水溶性珪素には、腸内環境を整えることを通して、自律神経をケアする働きも期待できるという。

「抗糖化」「自律神経のケア」などを介して、女性をサポートできる可能性が注目されているのだという。

「umo」を化粧品に配合した際の、新たな表示名称を取得したことについても話した。これまでは、「水、ケイ酸Na」という表記だったが、一から取り直しを行った結果、今後は「水、含水シリカ」という表示も可能になると説明した。

岡田社長は、「umo」を応用した新商品として「リポソーム化されたCBDシリカ」や「umo炭酸タブレット」のOEMの提案も行った。

医療健康関連事業を展開するすかい21（本社沖縄県）の瀬戸山忠人社長も登壇。自社で販売する量子共鳴起動分析器「Scan Analyzer（スキャンアナライザー）」について、説明とデモンストレーションを実施した。

同会では、life park. bizの金子昭伯会長も登壇。「認知症・ボケは人類誕生の設計通り」をテーマに話した。

日本珪素医科学学会総会と第40回学術発表会を開催

水溶性珪素関連100人が参加

珪素に関する学術研究を推進する日本珪素医科学学会（事務局東京都）は2月11日、総会と第40回学術発表会を、愛知県の三河湾リゾートリンクスで開催、水溶性珪素関連のビジネスに携わる約100人が参加した。同会の理事長で、水溶性珪素についてヒト臨床試験を実施し論文化した、愛知医科大学の先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授兼センター部長らが講演を行った。

総会では役員人事を全会一致で了承。珪素医学療法士の認定証授与なども行われた。

表彰式では、水の研究家である中島敏樹理学博士に、「珪素学術名誉博士」の称号が贈られた。

新企画として行われた「健康長寿のお祝い表彰」では、92歳で同会の理事を務める大山良徳・大阪大学名誉教授が表彰を受けた。大山氏は、福沢理事長から、表彰状と記念品を受け取った。

第40回学術発表会の様子

学術発表会ではまず、長野県中野市でたかはしクリニックを開業している高橋嗣明（つぐはる）院長が「水溶性珪素水の単独での臨床効果と、フルボ酸と海藻由来のコロイドヨウ素成分を加えた製品での臨床効果」をテーマにビデオ講演を行った。

同クリニックでは、「エネルギー医学」の考え方に基づき治療を行っている。さまざまな治療を行う中で、その一環として、水溶性珪素を用いているのだという。

高橋氏は、水溶性珪素による治療実績についてグラフなどを用いて説明。2年間で81症例に水溶性珪素を使用したことを明らかにした。個々の症例の報告も行った。フルボ酸と水溶性珪素を組み合わせて治療に用いる取り組みも始めているという。

水溶性珪素の使用においては、「倦怠感・疲労感の改善」や「腸の機能の改善」など、多様な臨床効果が見えてきているのだという。

珪素単体でも顕著な効果がみられることから、「今後はさらに症例を増やして検討を行いたい」などと話した。「フルボ酸＋コロイドヨウ素」に水溶性珪素をさらに加えたときの効果発現についても、検討を進めていく考えだという。

新年会では勇壮な太鼓の演奏などで会場は大いに盛り上がった

福沢氏は、「生活習慣病合併脂肪肝における水溶性珪素の有用性」をテーマに講演を行った。学術誌「アジア国際健康促進・未病改善医学会電子版」に論文として掲載された、水溶性珪素「umo（ウモ）」を使ったヒト臨床試験について報告した。

同講演では、研究の経緯や、試験設計などについても詳しく説明。その上で結果について報告した。

同試験では、脂肪肝の患者40人を対象にランダム化比較試験を実施。脱落者を除く計25人で評価を行った。水溶性珪素摂取群には、1日約9ミリリットルのウモ濃縮溶液（水溶性珪素として1日約80ミリグラム）を、6カ月間摂取させた。

その結果、水溶性珪素摂取群の「体重」に有意な減少が確認。「BMI」の有意な改善も確認された。論文ではこれらの結果について、「過去に報告された動物試験の結果と合致しており、水溶性ケイ素が通常の食事・運動療法における減量効果において、上乗せ効果をもたらす可能性を示唆している」と考察している。「有害事象が皆無であった点でも有用と考えられた」ともしている。

血栓を分解する線溶系の活性化の指標となる「PAI－1」についても有意な改善が確認され、血栓症のリスク軽減効果も示唆されたという。

水溶性珪素を摂取させなかった群では3カ月経過時に、〝やせホルモン〟などと言われることもある「アディポネクチン」が有意に減少したが、水溶性珪素摂取群では、有意な変化がみられなかったとしている。

肝機能障害の指標である「AST」にも改善傾向がみられた。

同会終了後の新年会で福沢氏は再び登壇、「水溶性珪素の有用性を科学的に証明できて良かった。『生体マトリックスumo』についても、さらに研究を進めていきたい」と意気込みを語った。

主催のAPAコーポレーション（本社愛知県）の岡田憲己社長は、あいさつで、『生体マトリックスumo』が今年スタートした。ここで止まるのではなく、さらに良いものを作っていきたい」などと抱負を語った。

同新年会では、勇壮な太鼓の演奏などもあり、会場は大いに盛り上がった。

狩野元滋社長

プレオープンイベントで社長らがあいさつ

同日、都内のスタジオでプレオープンイベントしている。インヴァーニジャパンの狩野元滋社長もあいさつ。会員に向けて「米国でのコンベンションに行くこと、台湾支社からイ

米国本社のパット・ペリー社長

年先も愛されるようなブランドにしていきたい」と意気込みを示した。

その他、新商品の体験会が実施された。

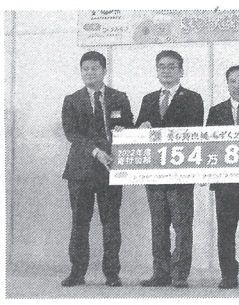
極的に催事を行ったことで、高額商品を中心に販売が好調に推移し、前年同期比15・0％増となった。

コープデリ生活

もずく支援で

伊平屋村の自

コープデリ生活協同組合連合会（本部埼玉県、土屋敏夫理事長）と会員生協（関東信越の6生協）は、沖縄県伊平屋村で生産されるもずくの利用を通じて、伊平屋村の自然環境保全に役立てる活動「美ら島応援もずくプロジェクト」で集まった154万8758円（対象期間：21年8月～22年7月）を「美ら島応援基金」



た。伊平屋村の名嘉律夫村長は「伊平屋を始め、沖縄の離島にはたくさんのごみが漂着する。砂浜をきれいにするため、プロジェクトの寄付金を使わせていただいている。皆さまの力で伊平屋の環境を未来へつないでいきたい」とコメントした。